

第 16 回国際世界諸英語学会 大会報告

千波 玲子

今年 16 回目を迎えた当学会の歴史は 1978 年に遡ることができる。同年 4 月にハワイのイースト・ウェストセンターで、さらに 7 月にイリノイ大学において「世界諸地域で使用されている英語の多変種 (varieties of English)」についての学会が開催され、その成果は 1981 年および 1982 年に 2 つの著作 (Smith, 1981; Kachru, 1982) としてまとめられた。¹⁾ 両氏はこれ以降当学会を牽引していくことになる代表的な研究者であるが、さらに Graddol や Bolton などが加わり研究領域を広げ深める役割を果たしていく。²⁾ 1988 年の TESOL (Teachers of English to Speakers of Other Languages) 学会での準備を経て、1992 年第 1 回大会がイリノイ大学で開催され、その後アメリカ各地、南アフリカ、ドイツ、シンガポール、香港、フィリピン、日本などで開催され、今回カナダのバンクーバーで 16 回目を迎えたのである。ちなみに来年はオーストラリアのモナシュ大学で開催される予定である。当学会で扱われる主たる領域は非母語話者英語の発展・確立・変容、英語教育・言語政策、非母語話者間での英語使用実態など多岐に亘るが、近年日本からの参加者も増加し、日本人の英語使用および日本における英語教育に関する論文が発表されている。

今回のテーマは World Englishes Today: A Critical Re-evaluation of Theory, Methodology, and Pedagogy in Global Contexts と題され、約 20 年の流れを再検証し、今後の方向性を探るものであった。基調講演・焦点講演に加えて 9 つのパネル・ディスカッションと 50 件あまりの発表が行われたが、中でも興味深かったのは Towards Developmental World Englishes と題されたパネルであった。ここでは Graddol および Bolton という指導的立場の 2 名が過去 30 年に亘るインド (Graddol) および香港・フィリピン (Bolton) における実態調査をもとに、今後アジア・アフリカ・ラテンアメリカ地域においてどのよ

うな英語教育が必要であり、また可能であるかについて提言した。もう一人のドイツからの報告者 Meierkord はアフリカの現状報告および問題提起を行った。³⁾ この Meierkord の発言に関して予期せぬ反応が出席者から起こり、あらためて World Englishes という概念の複雑さを実感させられたのである。氏の報告には「発展途上のアフリカ諸国においては言語学分野の学術的なレベルが先進国に比べいまだ低く、大学院における指導・研究や論文作成の過程にも不備がある」という指摘が含まれていた。これに対しアフリカ諸国からの参加者が猛然と反発したのである。期せずして実態調査の方法・分析・検証のあり方に関する問題提起ともなり、さらに地域差とくに先進国と発展途上国間の主張の温度差を実感させられる一幕であった。

研究発表の中では個人的に継続調査している非母語話者間の内容理解度 (comprehensibility) と音声理解度 (intelligibility) および非母語話者英語に対する態度研究に関するものに重点的に出席した。理解度に関する研究の中で長年課題となっている理解度を測る尺度に必要な要素を確定する難しさを実感させられるものも多かった。⁴⁾

個人的には第1回大会から出席している学会でもありその発展には感慨深いものを感じているが、日本における英語使用目的の明確化や英語教育の向上に当学会が多少でも貢献してきたかについては明確ではない。ただ2002年この学会の理念をもとに中京大学に日本で唯一の「国際英語学部」が開設され、World Englishes が教育に組み込まれるようになったことは喜ばしいことである。最近では企業内における英語の公用語化などが話題になる一方で、文部科学省の英語教育に関する方針は教育現場に明確な方向性を示しているとは言いがたく、当学会がこのような日本の現状に有益な示唆を発信出来ることを願っている。

註

- 1) Smith, L. ed. (1981) *English for cross-cultural communication*. London: Macmillan
 Kachru, B. ed. (1982) *The Other Tongue: English across Cultures*. Oxford :

Pergamon.

- 2) Graddol, David、代表的な著書は *Future of English* (1997, British Council)。
Bolton, Kingsley、代表的な著書は *Chinese Englishes: A Sociolinguistic History* (2003, Cambridge: Cambridge University Press)、*Asian Englishes* (2007, London, New York: Routledge) など。
- 3) Meierkord, Christiane、Ruhr-University Bochum からの出席者。
- 4) 従来多くの論文では定義を *comprehensibility: understanding of word/utterance* および *intelligibility: word/utterance recognition* (Smith and Nelson, 1985) としている。